

FUJITSUファミリー会 2011年度

表紙のことば (世界遺産シリーズ)



オーストラリア ウルルレ・カタ・ジュタ国立公園
1987年 ユネスコ世界自然遺産登録
1994年 ユネスコ世界複合遺産に拡大登録

オーストラリア中央部の、「レッドセンター」と呼ばれる赤土の大地に位置し、「地球のへそ」とも称される巨大な一枚岩「エアーズロック」(ウルル)と、36の岩から成るオルガ岩群(カタ・ジュタ)を有するウルルレ・カタ・ジュタ国立公園。壮大な奇岩が印象的な景観を織り成すこの地は、先住民アボリジニの重要な聖地の一つでもあり、その文化的側面が評価され、文化遺産としての価値も併せ持つ複合遺産に拡大登録された。公園は、アナンクというアボリジニの民族集団の所有地でもある。

C O N T E N T S

- FUJITSUファミリー会 2011年度
震災復興支援特別プログラム …… 2
- ICT 業界に新たな風を …… 4
～ファミリー会論文 募集開始～
- ICT 基礎講座 Close-Up …… 6
注目のソーシャルメディアを
ビジネスに活用
- トップは語る …… 10
株式会社 ホリ
代表取締役社長 堀 安規良 氏
- 講演録 …… 12
株式会社 箔一
代表取締役会長 浅野 邦子 氏
- 講演録 …… 14
味匠 焔っ川
専務取締役/国土交通省認定 観光カリスマ
吉川 真嗣 氏
- 豊かに生きる誌上セミナー
HUMAN HUMAN …… 16
ビジネスに成功を呼び込む「やれる気」のすすめ②
株式会社ノビテク
代表取締役 大林 伸安 氏
- わたしのおすすめ …… 17
- Family's Information …… 18
- 支部見聞録 From 東京 …… 22



開会挨拶

FUJITSUファミリー会 会長

横塚 裕志 氏 東京海上日動システムズ(株) 代表取締役社長

今年度より会長を務めさせていただくことになりました。皆様とともにファミリー会を盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお祈り申し上げます。

東日本大震災では、被災された会員の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。当初は、震災を鑑み、中止の方向で進めておりました春季大会を、このようなときにこそ、ファミリー会として復興支援に役立つ活動をとということで、関係各位のご協力により、内容を変更して特別プログラムとして開催する運びとなりました。

昨年度ファミリー会は、全国11支部ならびにLS研究委員会において700回もの活動を実施してまいりました。今年度も引き続き、各支部を中心に地域に密着した活動、LS研究委員会での先進技術に関する研究などさまざまな活動を展開してまいります。今年度は、会のスローガンである「語りあう夢、きそいあう知恵」の下、震災復興支援に役立つ施策を加えて、魅力あふれる活動を活発に展開していきます。引き続き、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



実行委員長挨拶

岩橋 誠 氏 JFEシステムズ(株) 相談役

2011年3月11日は、日本にとって忘れられない日となりました。被災された東北支部会員とその関係者の皆様に対し心よりお見舞い申し上げます。

大震災直後は仕方のないことですが、すべてに自粛ムードが漂い、ネガティブな思いにとらわれる日々でした。しかし日本はこのような天変地異を含め、明治維新や戦後の復興など、ほとんどゼロベースから立ち上がってきた歴史を持っています。そして今回のような大変な状況—国難とも言うべき—でも必ずどこかで復興へのターニングポイントが来ると信じております。足下の困難に決して挫けることなく、これを乗り越え、さらに上を目指すべく力を携えていきたいものです。われわれの属するIT業界の出番もその中にたくさん含まれていると思われまます。

今年度の秋季大会は奇しくもまさに被災地である東北仙台で行われることが予定されていました。われわれがこの時この場所で復興につながっていくような活動をするに大きな意味が与えられたと思います。ファミリー会は皆仲間です。このような時こそファミリー会の存在とその活動は大きな力になると信じるものです。

最後に、ファミリー会 会長として7年にわたり、大変よい機会を与えていただきました。また、すばらしいご後任の方を得ることができました。大変な時期ではありますが、これからのファミリー会のますますのご発展をお祈りいたします。長い間、誠にありがとうございました。



カリキュラム

講演

1

被災現地からの報告

ファミリー会東北支部長
(株)河北新報社 専務取締役

宍戸 實氏



未曾有の巨大地震と津波に襲われた3月11日の東日本大震災。各地の被害状況やファミリー会会員を含む企業のICT設備の被害状況などが報告された。そうした中で、河北新報社が被災した自社設備を復旧し早期に新聞の発行にこぎつけた現場の様子も語られた。

被災したときに大切なのは「水」と「食料」と「正確な情報」であ

る。このたびの震災では、大規模災害から顧客データを守ったクラウドの有効性と、連絡手段として多くの人に活用される地域SNSやツイッターなどのソーシャルメディアの重要性を痛感されたという。

この震災からの復興は単なる復旧ではなく、「創造的な復興」である。震災という大きなピンチをチャンスに変える発想の転換が求められている。そこに大きな役割を果たすのがICTである。復興に向けて解決しなければならない問題が山積しているが、報告の最後に、多くの人に東北に足を運んでいただくことこそ大きな支援と、仙台で開催される「2011年度 秋季大会」への参加を熱く呼びかけられた。

講演

2

震災に対する対策 「太平洋セメント株式会社様」

パシフィックシステム(株) 西日本支社長

服部 徹氏



国内トップシェアを誇る「太平洋セメント(株)」のシステムインテグレーターである「パシフィックシステム(株)」は、2007年より、大規模な震災を想定し、ブロードバンドを利用したバックアップシステムを稼働させていた。今回の大震災では、岩手県の太平洋セメント(株) 大船渡工場が被災したが、メインデータセンターは、被災することなく継続運用。バックアップセンターは、数日間停止。同社の遠隔地

バックアップ機能は停止したが、大きな事態には至らなかった。

情報システムの継続計画では、データセンターが停止したときに、バックアップセンターに必要な機能を、安否確認や各地との連絡などコミュニケーションの確保と、出荷や支払いなど取引先への影響がないようにすることとしていた。こうした計画がこのたびの大規模震災でどのように機能したか、時々刻々と変化する現場の様子が伝えられた。

非常時には「情報」が人と企業を守ることを実感され、クラウド時代のバックアップセンターのあり方への提言など、貴重な体験を元に語られた。

講演

3

不確実性が増す時代、クラウドの活用と期待 ～東日本大震災を契機とした経営の変革とICT～

富士通(株) サービスビジネス本部 安心安全ビジネス推進室長

太田 大州氏



東日本大震災は、日本と日本の企業にとって、大きなターニングポイントとなるであろう。日本の安心・安全神話が崩壊した今、変革のために忘れてはいけないことは、「世界が日本をどう見るか」という視点である。日本は大丈夫と言うためにはICTの存在が欠かせない。

富士通では、1995年の阪神淡路大震災を契機に、データセンター

事業を開始。その後、ディザスタリカバリー、BCPと対策を強化してきた。今後は、さらなるBCPの強化と、エネルギー不足への対策が求められる。国内外のデータセンターなど、リスク低減のための「分散」と、クラウドなど効率化のための「共有」は、必要不可欠である。

不確実性の時代、企業は、「法令遵守」「環境経営」に加え、「情報セキュリティ」「危機管理能力」など、事業の継続性に対する評価が求められる。富士通では今後も、顧客の経営を支えるためのICTのありかた、危機管理能力の見直しを徹底的に行っていくことを具体的な事例を交えて語られた。



富士通代表挨拶

富士通(株)
代表取締役社長

山本 正己氏

東日本大震災で被災された会員の方々へ、心よりお見舞い申しあげます。富士通の「ものづくり」の重要な拠点である東北地方では、今回の震災により、9つの工場が被災しましたが、強い現場力により、早い時期に復旧することができました。今回の震災は、私どもに、富士通の使命である「ICTによる新たな社会貢献」という大きな課題を残しました。新しい日本を創造するためには、日本が一つの絆で結ばなければなりません。

その意味でも、ファミリー会には、大きな役割があると思っております。

日本の復興に向けて、皆様とともに力強く前向きに進んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



当日お寄せいただいた義援金は、東日本大震災による被災者支援と被災地の復興に役立てていただくため寄付いたします。
ご協力ありがとうございました。